山本学園だより

第81号
発行者
山本学園情報文化専門学校
同　教育後援会
TEL 0566−81−2151

「考える」ことをあたりまえにする

校長　松浦　良昭

暖かな陽ざしが降り注ぎ、春本番を迎えた四月八日（水）の入学式で、二七六名の新入生を迎えました。九日の始業式では、二年生二九名、三年生二六名を加え、全校生徒七七一名で一学期がスタートしました。

始業式では、「自分から進んで」をキーワードとして学校生活を送るように話しました。一年生は自分から進んで学校生活に慣れることを、二年生は慣れてくると怠け心が出てくるので、自分から進んで怠け心に打ち勝ち、努力を続けて本物の力をつけることを、三年生は自分から進んであたりまえのことをできるようにして、進路選択を確かなものにすることを目標にするとよいと示しました。実際に自分から進んで取り組む様子は、各科、各学年ともに授業で見られます。特に専門教科では、少しでも多くの技術を身につけようとする姿があり、一般教科でもわかろうとする意欲が見て取れます。また、一学期には体育祭があり、執行委員を中心に企画、準備、運営がなされ、競技や応援に若いエネルギーがはじけました。十月の終わりには学園祭が予定されており、ステージ発表や展示発表のほか、屋台や生徒会企画など生徒の活躍が期待されます。

さて、先日、エンジニアの話としてこんな話を聞きました。「AIは単なる効率化のツールではなく、もはや『思考の完全な代行者』になっている。というのは、すべてAIに考えさせ、AIの考えたものが会議で提案される。それに対して質問すると、答えが返ってくるものの、自分で考えていないので提案者の思いや熱意が伝わってこないし、イレギュラーへの対応力も低い」という内容でした。そこまでAIが入り込んでいるのかと驚くと同時に、効率化を図るために取り入れたAIに依存するあまり、人が考えなくなるのは困ったものだとも思いました。AIは、実に大きな力を発揮します。しかし、それに頼りすぎると自分で考えなくなり、考えることをしなくなると想像する力が衰え、その結果、人の気持ちがわからなくなってしまうことがあるようです。ここに、大きな問題が潜んでいるように思います。やはり、「自分で考え、それを試して修正し、よりよいものにしていく」というように、自分が主体者になることがよいのではないでしょうか。そうすることで、自分の思いを実現していけるのだと思います。生徒たちには学校生活の中で、「自分で考える」ことをあたりまえのこととして実践してほしいと願っています。

今年度も、教職員一同、一人一人の生徒と向き合い、目標に向かって努力する生徒を励まし、時には見守りながら支援していきます。そして、信頼される山本学園を目指していきますので、今後とも保護者の皆様にはこれまで同様にご理解とご協力、ご支援をよろしくお願いいたします。

『愉しい事ばかり』

教育後援会会長　窪田　浩二

本年度、教育後援会会長を務めさせていただく窪田浩二と申します。日頃は、後援会事業の運営に学園関係者、先生方、保護者の皆様には温かいご支援を賜り、誠にありがとうございます。

さて、サッカーW杯の感動が昨日のことのように思い出されます。手に汗握る熱戦が続き、「がむしゃら」に取り組んだ選手の姿はとてもすばらしく、感動を与えてくれました。同時にここに至るまで、代表選手もきっと思い通りにならず悔しいと思えることが何度もあったことでしょう。しかし、その中で粘り強く取り組んだことが我々に感動を与えてくれたのだと思います。多くの粘りは、きっと「愉しい」と思える前の苦しみだと思います。真剣に向き合い、粘り強く取り組んだ自分自身の姿は自信につながり、「愉しい」と思えるようになることでしょう。苦しい時もあるかと思いますが、もう少しだけ「がむしゃら」になって取り組んでみてください。特に三年生は、卒業までの時間で次の扉を開くための準備をすることになります。「最高の自分自身」をつかみとれるように、残りの学園生活を「HiPower」で愉しんでください。新しい可能性が広がっていくことを願っています。

月日が足早に過ぎ、あっという間に半年がたとうとしています。この半年間で、心に残っている出来事はありますか。私は、入学式での凛とした新入生の姿と、日頃味わえない緊張感が印象深く残っています。今後も、会長として後援会活動を皆様とともに、さらに成長、前進させることができたらと思います。

結びに、保護者の皆様におかれましては、今後も子供たちが充実した学園生活を送れるように、引続きご支援、ご協力のほどお願い申し上げます。

二〇二六年度 教育後援会役員

顧問　山本　直明（理事長）
　　松浦　良昭（校　長）
会長　大見　貴寛（前年度会長）
副会長　窪田　浩二（P）
　　溝口　佳江（P）
　　林　恵美（P）
　　西崎　修（副校長）
書記　田島　義久（T）
　　真島　沙知（T）
会計　渡邉　基矢（事務局）
監査　神谷　美穂（P）
　　加藤　有悟（教　頭）
第1ブロック長　溝口　佳江（P）
第2ブロック長　窪田　浩二（P）
第3ブロック長　林　恵美（P）
担当職員　油谷亜由美（T）
　　田島　義久（T）
　　真島　沙知（T）

生徒会役員認証式

二〇二六年四月三日（金）に山本学園三号館西館二階南側教室において、二〇二六年度生徒会役員認証式が行われました。二〇二五年度末に生徒会役員選挙が行われ、左記の生徒が生徒会役員に就任しました。

会長　竹内　政人（鬼　崎　中）
副会長　天野　翔太（篠　目　中）
副会長　千々石そら（三　好　中）
書記　鳥居　蒼依（甲　山　中）
書記　嶌崎　美姫（代　田　中）
会計　伊藤　優希（竜　海　中）
会計　矢野　萌（岡崎北中）
会計　中西　蓮（前　林　中）
会計　水野　弥太（日進西中）

充実した生徒会活動

八月十五日（土）、第二十五回「知立よいとこ祭り」に運営補助として参加しました。当日は、運営スタッフ全員がピンク色のスタッフTシャツを着用し、心をひとつにしてイベント運営に臨みました。会場となった知立市中央公民館では、eスポーツの体験ブースでは、子どもから大人まで幅広い世代が熱中し、世代を超えた交流の場となりました。これらのアクティビティを通じて、地域コミュニティの活性化にもつながったと実感しています。

続いて、八月三十一日（月）には、第三十五回学園祭に向けた「YGパフォーマンスオーディション」を実施しました。これは、十月二十三日（金）に開催される舞台発表の選考を兼ねたものであり、昨年度を上回る盛り上がりを目指して、さまざまな企画や演出面でも工夫を凝らしました。オーディションでは、歌、ダンス、演奏など多彩なジャンルのパフォーマンスが披露され、生徒たちの熱意と創造力がひしひしと伝わってきました。

また、九月三日（木）には、第五十五回弁論大会の運営を担当しました。会場は昨年度と同様、パティオ池鯉鮒での開催となりました。昨年度同様に、午前中にリハーサルを実施し、午後に本番を行う構成としました。この工夫により、発表する生徒たちは事前に会場の雰囲気を体感でき、緊張の緩和やパフォーマンス向上にもつながったと感じています。各学年の代表として選ばれた生徒の発表が、より多くの人々の心に届く大会となりました。

高校生レストラン

調理師科二年生では、九月から知立市のレストラン「Bush Clover（ブッシュクローバー）」を会場に、高校生レストラン「YGブッシュクローバー」を開店します。この取り組みは、生徒たちが授業で学んだ専門的な知識や調理技術を実践の場で発揮し、調理師として必要な実践力や職業観を身に付けることを目的とした、本校ならではの実践的な学習です。

また、地域の食材を積極的に取り入れ、その魅力を料理を通して発信することも大切なテーマです。地域の方々との交流を深めながら、高校生が地域活性化の一翼を担うという意識を育む貴重な機会にもなります。

営業はプレオープンを含め全六回を予定しており、調理師科二年二組と二年三組が交互に担当します。各回十二名の生徒が参加し、前日に仕込みや会場準備を行い、当日は調理、盛り付け、接客、配膳、会計など、それぞれの役割を分担してレストランを運営します。実際にお客様をお迎えすることで、料理を作る技術だけでなく、衛生管理や原価意識、時間管理、接客マナー、チームワークなど、現場で求められる力を総合的に学びます。

現在、生徒たちは授業の中でメニュー開発や試作を重ね、店舗レイアウトやサービス方法、卓上装飾などについても話し合いを進めています。お客様に「また来たい」と感じていただけるレストランを目指し、一人一人が責任を持って準備に取り組んでいます。

高校生レストランは、授業で身に付けた力を試す場であると同時に、お客様から直接評価や励まされた言葉をいただける貴重な学びの場でもあります。成功や失敗の経験を積み重ねながら、生徒たちは調理師としてだけでなく、社会人として必要な力も身に付けていきます。仲間と協力し、一皿一皿に思いを込めておもてなしをする生徒たちの成長と活躍に、ぜひご期待ください。

全国高等学校ワープロ競技大会

六月七日（日）に開催された、「第三十七回長野県高等学校ワープロ競技大会」に、本校生徒四名が緑誠蘭高等学校の代表として参加しました。昨年の第八戦に続き、部員同士で切磋琢磨しながら練習に取り組み、優勝。そして、二連覇の栄光を勝ち取ることができました。また、七月十一日（土）に開催された、「第三十二回全商北信越地区高等学校ワープロ競技大会」にも参加しました。北信越地区大会への出場は昨年度に続いての出場でしたが、県大会から短い練習期間ではありましたが、練習に励み、第四位に入賞することができました。さらに、七月二十九日（水）に開催された、「第七十三回全国高等学校ワープロ競技大会」においても、本校生徒が団体の部での出場を決めました。引き続き、応援よろしくお願いします。結果は次の通りです。

第三十七回長野県高等学校ワープロ競技大会
団体の部
優勝　緑誠蘭高等学校　井手　柚葉（若　園　中）
　　野田　蒼馬（前　林　中）
　　杉本　雄哉（安　祥　中）
　　芦刈　月華（安　城　北　中）
個人の部
第二位　井手　柚葉（若　園　中）
第三位　杉本　雄哉（安　祥　中）

第三十二回全商北信越地区高等学校ワープロ競技大会
団体の部
第四位　緑誠蘭高等学校　井手　柚葉（若　園　中）
　　野田　蒼馬（前　林　中）
　　杉本　雄哉（安　祥　中）
　　和出　楓禾（常　磐　中）
個人の部
第二位　杉本　雄哉（安　祥　中）

第七十三回全国高等学校ワープロ競技大会
団体の部（出場）　井手　柚葉（若　園　中）
　　野田　蒼馬（前　林　中）
　　杉本　雄哉（安　祥　中）
　　芦刈　月華（安　城　北　中）

西三河優勝 卓球部の活躍

男子卓球部が、今年度ついに西三河地区の高等学校で頂点に立ちました。八月末に開催された西三河地区高等学校卓球選手権大会学校対抗の部において、連覇を重ねている岡崎城西高等学校に競り勝ち、一部をリーグ全勝で終え、優勝の栄光に輝きました。

愛知県高等学校総合体育大会では学校対抗、シングルス、ダブルスの三種目で県大会出場を果たしました。女子卓球部は学校対抗の部で創部以来初となる県大会出場を果たしました。愛知県専修学校各種学校連合会卓球大会では、団体戦において、男女そろって優勝に輝きました。個人戦では男女合わせて十二名の選手が全国大会への出場を決めました。今年度は男女そろって「専門学校日本一」を目標に練習を重ねています。

また、卓球部は地域貢献として知立市の卓球大会において、運営のお手伝いをしてきました。昨年度は知立市開催のTリーグ（卓球プロリーグ）トップおとめピンポンズ名古屋ホームゲームにボランティアスタッフとして活動しました。今年度は愛知県で開催される第二十回アジア競技大会、アジアパラ競技大会の卓球競技において競技運営スタッフ（FOPボールパーソン）として活動を予定しています。

ちりゅっぴオリジナル衣装制作

今年の学園祭ファッションショーでは、知立市の大人気ご当地キャラクター「ちりゅっぴ」との特別コラボ企画を実施します。本校の生徒たちが自由な発想でデザインしたオリジナル衣装を、ファッションライフ科で制作しました。生徒たちの想いがたくさん詰まった特別な衣装は、学園祭のステージで実際にちりゅっぴが着用して初披露いたします。ぜひ、ここでしか見られない新しい「ちりゅっぴ」の姿を会場でご覧ください。「世界ご当地キャラグランプリ」への応援もよろしくお願いします。

体育祭

月日　二〇二六年五月二十九日(金)
会場　草刈公園グランド
体育祭結果
優勝　青組
1年　11組・12組・13組
2年　1組・2組・3組・11組・12組・13組・
3年　11組・13組・14組
長縄八の字跳び結果
一位　284回　3年　2組
二位　226回　3年　1組
三位　223回　2年　1組

今年の体育祭は、
「全員主役　頂点へ」
～ヤマガク王に俺はなる～
をテーマに知立市の草刈公園グランドにて開催されました。二年連続で雨天延期が続いていましたが、今年度は計画通り五月二十九日(金)に開催することができました。

この体育祭を開催するにあたっては、有志として集まった体育祭執行委員が、二月から競技種目や運営方法を話し合って準備を進めてきました。なかでも、今年度の目玉である男子競技の「第一次ヤマガク合戦（チャンバラ）」とクラス競技「台風の目」については、ルールや道具の準備に非常に多くの時間を費やしました。直前の一週間は、校舎前の外庭やグラウンドにてリハーサルを実施して、体育祭の成功のために努力を続けました。全校生徒も体育の授業で練習を重ねて、各クラスがチームカラーに合わせたクラスユニフォームを作製するなど、生徒それぞれが期待と不安を胸に体育祭当日を迎えました。

体育祭当日は、強い風と舞い上がる砂埃に負けることなく、赤組と青組に分かれてさまざまな競技が行われ、熱戦が繰り広げられました。注目の新競技「第一次ヤマガク合戦」では持参したヘルメットを被り、スポンジの剣を片手に男子生徒が頭に付けた紙風船を叩き合い、戦国時代を模した競技となりました。また、「台風の目」はクラスが協力して競い合い、観戦する生徒も非常に盛り上がることができました。

体育祭執行委員の生徒は、行事を成功させるために最後まで責任をもって運営することができました。最終的には青組が勝利をおさめましたが、勝ち負けに関係なく生徒たちの表情には笑顔があふれ、全員にとって充実した体育祭となりました。

特色ある部活動

本校には、意欲的に学校生活に取り組み、友人との交流や人格形成をするために、多種多様な部活動があります。六種の運動部と十一種の文化部があります。その中でも、特色ある部活動を紹介します。

・まんがアニメ部
イラスト制作やコスプレ、漫画制作など幅広い創作活動を行っています。毎週火曜日に活動しており、いつでも見学を受け付けています。自分の「好き」を自由に表現し、形にできる部活です。学園祭では、日々の活動の集大成として、部員の作品を集めたオリジナル作品集のほか、手作りの缶バッジやしおりといったグッズ制作にも積極的に取り組んでいます。さらに、学園祭ではまんがアニメ部によるステージを開催します。

・eスポーツ部
二年生を軸とした体制で、活動を開始しています。全国高校対抗eスポーツ大会「STAGE10」では各部門に九チームが出場しました。三人一組のチームで戦略的に生き残りを競う次世代チームベースPVPゲーム Archeron の開発元である DRIMAGE [JAPAN] に協力をし、日々技術とチームワークを高めています。毎日部活動に励み、現在は学園祭での出し物も準備中です。ぜひご期待ください。

・映像研究部
『短編映画を作りたい！』
短編映画の製作は映像研究部にとって最も気合の入る活動のひとつです。脚本・監督・俳優・撮影・音響・照明などすべて生徒が行います。先日撮影した短編映画「白い花の時間割」部長の長野さんによる脚本・監督作品です。一年生も慣れない機材操作に奮闘しながら、初めての撮影体験を楽しみました。完成した作品は「映像研究部公式YouTube」での公開をはじめ、コンテスト等にも応募する予定です。

和太鼓部演奏会

現在、和太鼓部は六名で活動しています。昨年度から外部コーチが二名となり、より充実した環境で練習に励んでいます。二〇二六年三月二十八日(土)には、卒業生を含む五名で、パティオ池鯉鮒にて小・中学生との合同演奏会を行いました。今後は学園祭だけでなく、地域のイベントなど外部での演奏にも積極的に取り組み、和太鼓の魅力をより多くの方に届けていきたいと思います。

一日体験入学

七月二十八日(火)、二十九日(水)、三十日(木)の三日間、県下一三二校五九〇名の中学生を迎え、山本学園二号館をメイン会場として、一号館、二号館、三号館において一日体験入学が実施されました。

今年度は、六つの講座を設けました。ファッション講座は「かわいいBear」の製作、調理師科講座は「ふわふわオムライス」の体験、CGアート講座はペンタブレットを使い「イラスト」の製作、動画クリエイター講座は専用ソフトを使い「自作動画」の編集、ゲームプログラミング講座は「卓球ゲーム」の製作、ドローン講座はプログラミングや法律の学習、ドローンの実演がそれぞれ行われました。どの講座も多くの中学生が参加し、大盛況でした。

二学期には、「体験入学・見学会」が四回にわたり実施される予定です。今回同様に、魅力ある内容で中学生を迎え入れたいです。

第三十六回山本学園ファッション画コンテスト

本校主催、三河教育研究会、知立市教育委員会、中日新聞社後援の「第三十六回、山本学園ファッション画コンテスト」の応募が九月四日(金)締め切られました。

このコンテストは、中学生が創作したファッション画をもとに、本校生徒が実際に作品を製作するもので、地域の若い才能を育てることをねらいとしています。

本年度は県内の中学校三六校から二五点の応募がありました。作品はいずれも若い感性が溢れた力作揃いでした。製作した作品は十月二十四日(土)のオープンキャンパス(学園祭)のファッションショーで披露されます。コンテストの入賞者は次のとおりです。

最優秀賞・中日新聞社賞
河口　弥央（上　野　中）
優秀賞
日高　ジュリア　直美（刈　谷　南　中）
優良賞
吉田　朱璃（高　蔵　寺　中）
佳作
安藤有希（新香山中）、中川波音（岡崎南中）、飯田萌依子（高橋中）、山口柚音（安城西中）、西尾紬（刈谷南中）、坂東芽咲（豊橋本郷中）、阿部夏実（豊橋東部中）、山本鈴歌（蒲郡中）、安藤文香（明豊中）、金原史織（上野中）

第三十四回ヤマガクPC入力スピード認定

七月二十二日（水）に「第三十六回ヤマガクPC入力スピード認定」が行われました。

盛暑の中、県下より三十八校二五一名の中学生が集まり、意欲的に認定試験に臨みました。同認定試験の定着ぶりがうかがわれます。

また認定試験で、十分間で最も多く文字を入力した生徒は、一七九〇点を獲得しました。コンテストの部においては、個人戦に加え、団体戦も行っており、今回は二十校四十七チームが参加しました。

個人戦　結果
優　勝　一七九〇点(三年生)
準優勝　一五二二点(三年生)
三　位　一四五六点(三年生)

団体戦　結果
優　勝　豊川市立西部中学校A
準優勝　豊田市立前林中学校A
三　位　岡崎市立翔南中学校A

第十四回ヤマガクレシピコンテスト

今年度で十四回目をむかえるヤマガクレシピコンテストが、中学生を対象に開催されました。

今年は「もったいないをおいしく変身！」をテーマに、県下七校十八作品の応募があり、通常廃棄する食材を生かし、見た目だけでなく、独創性あふれる作品が多く集まりました。入賞者は次の通りです。

最優秀賞　並びに　中日新聞社賞
しゅーまい　高橋もも永（上　野　中）
優秀賞
野菜の破棄部分かき集め揚げ　荒川　琉聖（大　高　中）
器もどうぞ！海老香るかぼちゃリゾット&フォカッチャ　杉山　明里（西　尾　中）
アイディア賞
ミッ茶!!カップケーキアイス　有澤　杏珠（日進西中）
山田　真生（日進西中）
捨て無（ｓｔｅｍ）ケークサレ　原田　結菜（豊　明　中）
勿体無い定食　縫纏悠惟乃（大　高　中）
山下　心愛（大　高　中）

先輩からのメッセージ　活躍する卒業生

CFCに入学して

中部ファッション専門学校
新垣　クミコ（ファッションライフ科卒）

私は中部ファッション専門学校に入学し、高校から興味のあったファッションビジネスについて、より深く学ぶために日々勉強しています。高校で培った知識や経験を専門的な学びへとつなげて、確かな力にしていくことを目標に頑張っています。

授業では、製作を行う実習だけでなく、服装史や素材についての座学、特にいろいろな内容を学んでいます。授業を受けるたびに、自分の成長を実感しています。

これからも専門学校での一つ一つの学びを大切にして、吸収した知識や技術を仕事に生かせるよう、ファッションビジネスについてより一層追究していきたいと思っています。

より良い自分を目指して

山本学園情報文化専門学校専門課程
栄森　ユウタ（ICTビジネス科卒）

私は山本学園の専門課程に進学して、高等学校時代に習ったことを深掘りしていくものから新しいものまで、幅広いコンピュータ活用のスキル知識を学んでいます。授業もわかりやすく、もしわからないところがあっても先生が丁寧に教えてくださるおかげで、順調に力をつけることができています。

私は、専門課程で、さらに勉学に励み、力をつけるだけでなく、人としても成長したいと思っています。そんな「より良い自分」を目指して、これからも頑張っていきたいです。

大学生活で学んだこと

東海学園大学健康栄養学部健康栄養学科
岡本　絢音（調理師科卒）

私は大学に入学してから、勉強や人間関係に真剣に向き合ってきました。大学では自分で時間割を決めるため、入学当初は新しい環境に慣れることや友人づくりに努力しました。

現在は同じ目標を持つ友人と支え合いながら、充実した毎日を送っています。また、大学の授業は高校よりも難しく、一回の授業時間も長いため、復習を怠るとすぐに内容についていけなくなります。そのため、空きコマを利用して友人と復習をしたり、テスト期間には朝から学校へ行って勉強したり、日々努力を重ねてきました。大学生活を通して、継続して努力することの大切さや、仲間と協力しながら学ぶことの大切さを実感しました。

これからもこの経験を大切にし、勉学に励んでいきたいと思います。

日々前進、仕事から学んだこと

トヨタ自動車株式会社
蒲池　祥喜（調理師科卒）

会社に入ってから最も成長できたと感じることは、品質と安全を常に意識して仕事に取り組めるようになったことです。入社当初は作業を覚えることで精一杯でしたが、先輩方から「なぜこの作業をするのか」を教えていただき、一つ一つの作業の意味を考えるようになりました。現在は、決められた手順を守るだけでなく、品質を確保するための確認や、危険の予知・周囲への気配りを大切にしています。異常を感じた際にはすぐに報告・相談することも徹底しています。今後も改善を積み重ね、品質と安全を守る一員として成長していきたいです。

選んだ道を正解にしていくことが大切

京都大学工学部情報工学科
谷口　友優（ICTビジネス科卒）

私は現在、中京大学工学部情報工学科で学んでいます。

高校時代は情報技術の勉強に力を入れ、ITパスポートやJavaの資格取得に向けて取り組みました。また、14年間続けてきたバレーボールにも本気で向き合い、情報を学ぶことができ、バレーボールも続けていける大学を選択しました。

大学進学後は情報分野の専門的な学習に取り組む一方で、自分の将来について改めて考える機会が増えました。高校生の頃は「正解の進路」を探していましたが、今は自分で選んだ進路を正解にしていくことが大切だと感じています。

高校生活では資格取得や勉強だけでなく、部活動や友人との時間も大切にしてください。その経験は大学や社会に出てから必ず自分を支える力になります。

最後になりますが、今取り組んでいる部活動、学校行事は、将来必ず自分の力になります。一日一日を大切にして、悔いのない学校生活を送ってください。

自分から挑戦したことや学んだことは必ず役に立つ

株式会社デンソー
山本　千潤（ICTビジネス科卒）

私は現在、株式会社デンソーで働いています。

配属先ではステータスコードを使った外部品の外観チェックをしています。製品の外観チェックでは、機械から出てきた外観チェックをしています。

私は現在、株式会社デンソーで働いています。

研修を終え、今は安城製作所で勤務しています。

入社してからの仕事でも、高校時代に勉強や部活動で学んだことを生かして仕事をしていきたいと思います。高校時代に自分から挑戦したことや学んだことは必ず役に立つと思いますので、残りの高校生活を頑張ってください。

上級校だより

中部ファッション専門学校

七月十八日(土)、八月二日(土)、二十九日(土)の三日間、高校生を迎えてオープンキャンパスを実施しました。

今年度も開催日ごとに体験コースを分け、一回目はつけ袴、パーソナルカラー&骨格診断、二回目はコラージュトート、手づくりロゼット、三回目はナップザック、デザイン発想を行いました。各コース同じ高校から参加した学生同士だけでなく、他校の学生とも交流を広げながら、やがやがやデザイン体験を楽しんでいました。保護者の方にもご参加いただき、各回とも活気に溢れたイベントとなりました。

また、今年度の外部コンテストでは、ナゴヤファッションコンテスト、日暮里ファッションデザインコンテスト、リクロースカップ、他、多数のコンテストで一次審査を通過し、学生たちが現在熱心に作品制作に取り組んでいます。

中部製菓専門学校

八月二十五日（火）に「第四十四回中部洋菓子技術コンテスト大会」が開催されました。マジパン仕上げ部門で日本洋菓子協会連合会公認技術指導委員長賞（二位）、シュガークラフト工芸菓子部門で日本洋菓子協会連合会長賞（二位）、中部洋菓子技術コンテスト大会会長賞（二位）、を受賞することができました。

アスト大会での入賞は十一年連続であり、マジパンクラフトの両部門で一位を受賞できたことは、開校以来の快挙です。

二年生の学生たちは、この夏に国家資格である「製菓衛生師試験」を受験し、今年度の試験では見事二年生の就職活動では、中部製菓の強みである全員が合格しました。

就職先を目指した全員が順調に進路を決定しています。和・洋菓子店、カフェ、ベーカリー等、多くの選択肢の中から学生一人の希望や適性に合わせて進路指導を行っています。

山本学園情報文化専門学校専門課程

・高度情報（大学併修キャリアアップ）
今年度より二学年在籍となりすべてに大学卒業単位を取得済みの学生もいます。大卒としての就職活動が可能になります。

・コンテスト受賞結果
「知立ロータリークラブ記念誌表紙デザインコンテスト」
最優秀賞受賞　一名

・今年度の主な検定取得結果
基本情報技術者試験　三名
情報セキュリティ　六名
ITパスポート　二十二名
Webクリエータ　十二名
情報システム試験　十三名
イラストレータ試験　五名
フォトショップ試験　十名
MOS試験　四十四名
ビジネス能力検定
日本漢字能力検定